

事業再評価

社会資本整備総合交付金 九十九里浜 侵食対策事業

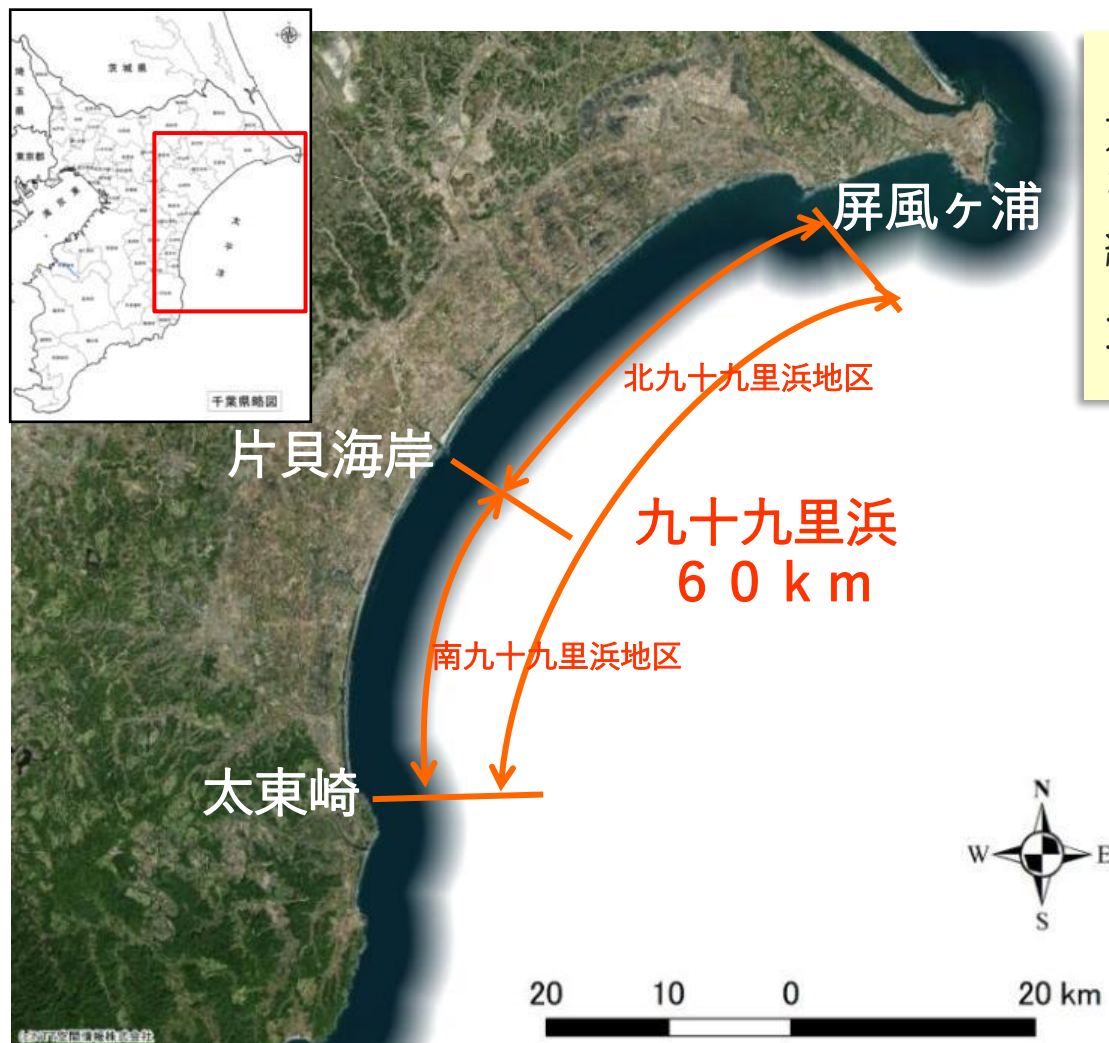
令和8年1月21日
千葉県 県土整備部 河川整備課

目次

1. 事業の概要
2. 事業の進捗状況
3. 社会経済情勢等の変化
4. 事業投資効果
5. コスト縮減
6. 対応方針(案)

1. 事業の概要

【海岸特性】



九十九里浜は、延長60kmの長大な砂浜海岸である。雄大な弓形をなす白砂清松の九十九里浜が続いており、首都圏屈指のレクリエーション拠点として年間を通して観光地となっている。



1. 事業の概要

【事業内容】

事業延長 約 60 km

事業期間 R3～R31

目標浜幅 40 m

工種	地域	数量	事業費
養浜	北九十九里	2万m ³ /年	340億円
	南九十九里	7万m ³ /年	
施設整備	北九十九里	ヘッドランド2基(縦堤延伸)	
	南九十九里	離岸堤7基、ヘッドランド9基	

【養浜】



養浜: 海岸に人工的に砂を入れて、砂浜を作り出すこと。

【施設整備】



ヘッドランド: 岬間から沿岸方向に流出する砂を制御することで、砂浜の安定を図る。



離岸堤: 海岸線と平行にブロックを積み上げた構造物のこと。沖合からくる波を弱めて、侵食を防止する。

1. 事業の概要

【事業の変更点】

事業費の増額

事前評価時：330億円



今回再評価：**340億円**
(10億円増額)

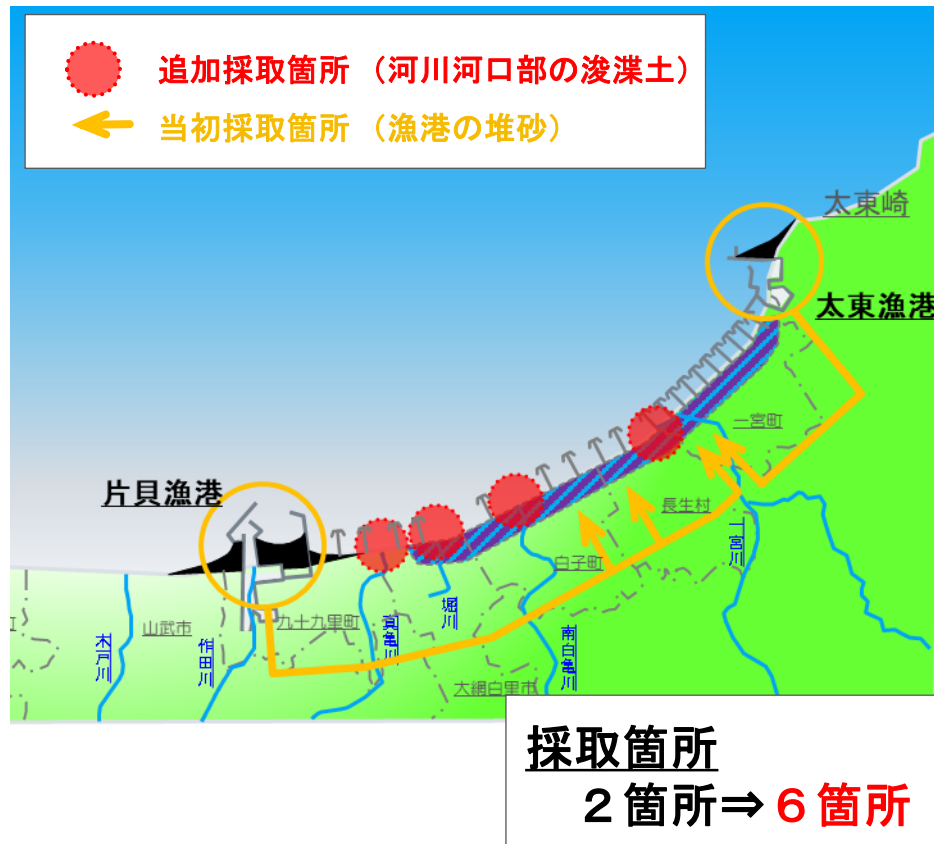
変更理由

養浜材の採取箇所の追加に伴う
事業費の増額

施工時写真



採取箇所図（南九十九里）



2. 事業の進捗状況

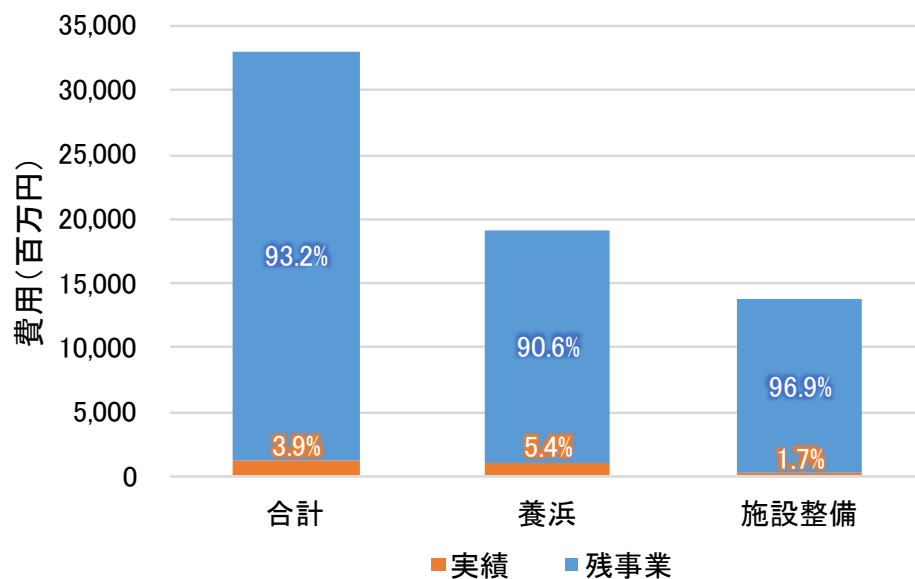
事業費ベースの事業進捗率は、令和7年度末で約4%になる見込み。

【事業進捗率（事業費ベース）】

（単位：百万円）

事業	全体事業費	R7年度末見込み	
		事業費	進捗率
養浜	19,990	1,083	5.4%
施設整備	14,010	233	1.7%
合計	34,000	1,315	3.9%

注）費用および進捗率は、表示桁数の関係で計算値と異なる場合がある。



【施設整備】ヘッドランド（縦堤延伸）



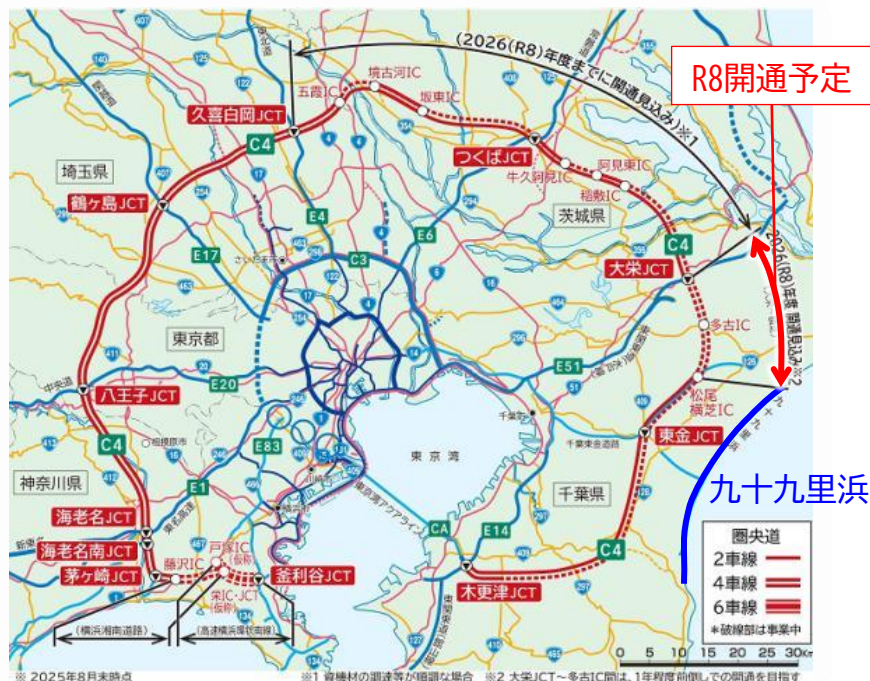
3. 社会経済情勢等の変化

【海岸へのアクセス】

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通（令和8年度予定）によるアクセス向上に伴い、広域的な海岸利用者の更なる増加が見込まれる。

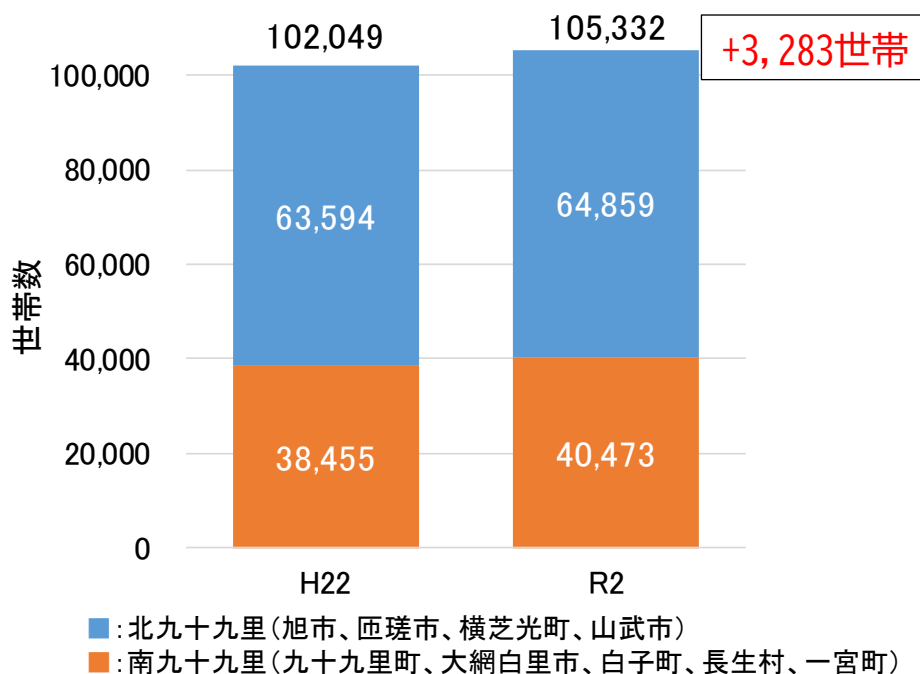
【背後地の状況】

- 九十九里浜沿岸市町村の世帯数は増加（約3%増）している。



（出典：国土交通省関東地方整備局HP）

九十九里浜沿岸 世帯数の推移（H22～R2）



（出典：総務省 国勢調査結果より）

3. 社会経済情勢等の変化

九十九里浜では多発する高潮へ対応するため、侵食対策を行い、防護機能の向上を図る必要がある。

過去の主な被災状況

発生年月	起因	被害概要
平成27年12月	継続的な高波 及び 海岸侵食	北九十九里(吉崎海岸、木戸海岸) ・護岸被災 南九十九里(一松海岸、一宮海岸) ・フトン簗損傷、浜崖の形成
平成30年8月	台風13号	白里中央海水浴場(大網白里市) ・砂浜侵食

【平成27年】護岸被災（吉崎海岸）



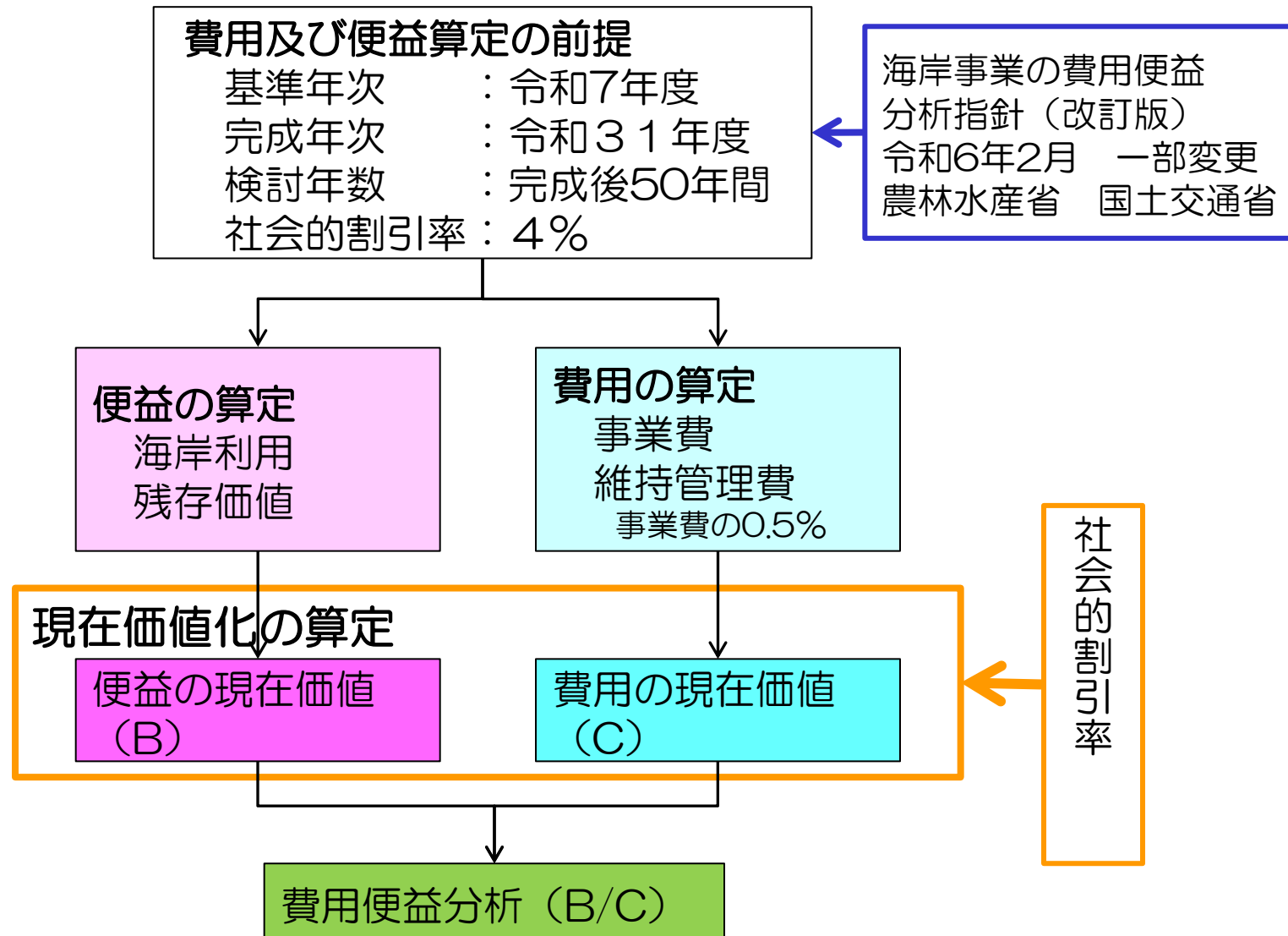
【平成30年】砂浜侵食（大網白里市）



(出典：九十九里浜侵食対策検討会議資料)

4. 事業の投資効果

① 費用便益比の算定方法



4. 事業の投資効果

②海岸利用便益の算定

分野	分類	項目	効果具体例
海岸利用	レクリエーション等利用	レクリエーション等利用維持・向上効果	海岸を整備することで生じるレクリエーション、スポーツ等の利用が、現状より増大することを評価・算定する。
	アメニティ向上・存続	利用者の疲労軽減効果	美しい海岸を整備することによって生じる住民、国民のアメニティ向上が享受できる非利用（存在）の価値を評価・算定する。
	漁業等利用	砂浜等の生物生育効果	海岸を保全・整備することによって生じる生物育成環境を漁業等の活動により利用することを評価・算定する。
	土地利用	土地創出効果	公有地造成護岸等整備事業に伴い造成された用地に住宅や商業施設、工場などが立地する状況を評価・算定する。

レクリエーション等利用

漁業等利用

海水浴、イベント、散策、
団らん等

ハマグリ等の漁獲

4. 事業の投資効果

②海岸利用便益の算定 (レクリエーション等利用)

レクリエーション等利用における便益の算定

(1)算定方法

「TCM」(トラベルコスト法)

算定方法一覧表(海岸事業の費用便益分析指針より抜粋)

分野	分類	項目	算定方法			
			消費者余剰	CVM	TCM	代替法
利用	レクリエーション等利用	レクリエーション等利用維持・向上効果	○	○	●	○
	アメニティ向上・存続	利用者の疲労軽減効果		●	○	
	漁業等利用	砂浜等の生物育成効果	●	○		

※表中の●は、基本的な算定方法である。○は算定根拠が明確ならば算定可能な算定方法である。

(2)九十九里浜の年間平均入込客数

海水浴 : 25.9万人

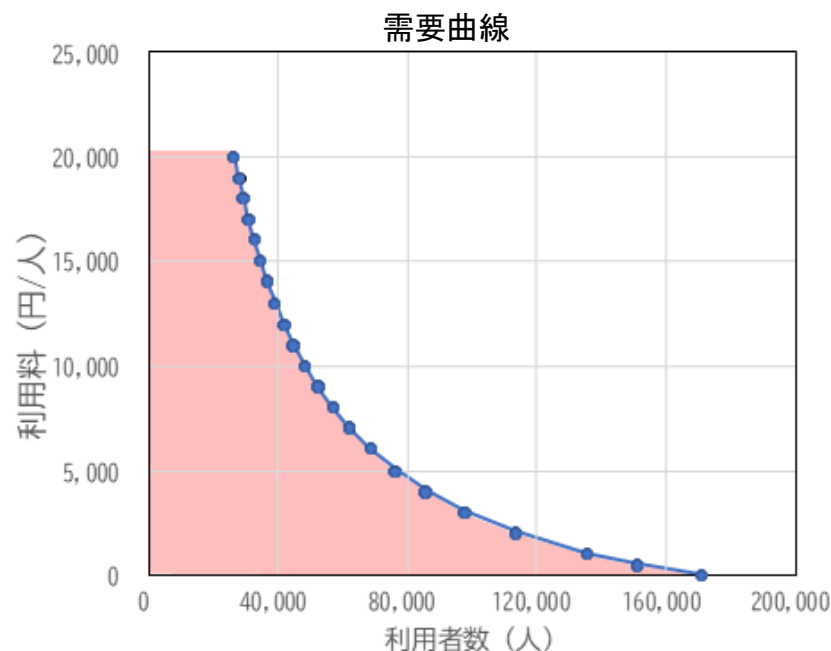
イベント : 22.0万人

合 計 : 47.9万人

(出典: R5千葉県観光入込調査報告書 抜粋集計)

(3)算定結果

2,420百万円/年



4. 事業の投資効果

②海岸利用便益の算定 (漁業等利用)

漁業等利用における便益の算定

(1) 評価対象種

九十九里浜で採取できる重要資源の1つである「ハマグリ」を対象とする。

(2) 年間の平均漁獲量・漁獲単価 (千葉県漁業資源課の提供データより平均値を算出)

漁獲量 : 1,486,000kg

漁獲単価 : 1,102円/kg

(3) 漁業等利用の便益の算定

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{漁獲量} \\ 1,486,000\text{kg/年} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{漁獲単価} \\ 1,102\text{円/kg} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{便益} \\ 1,638\text{百万円/年} \\ \hline \end{array}$$

4. 事業の投資効果

③残存価値

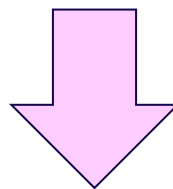
○残存価値 費用便益分析指針から算出

養 浜 → 機能が低下せず、維持管理により価値減少しないと設定

施設整備 → 施設が劣化するため、価値が総費用の10%と設定

基準年次：供用期間50年後

基準とする年度における
価値(現在価値)に換算



・社会的割引率4%

現在価値化

残存価値 11億円

4. 事業の投資効果

④費用の算定

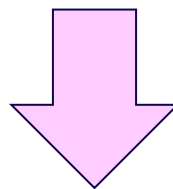
○事業費 → 事業計画の年度別事業費を設定

○維持管理費 → 累積事業費の0.5% (※1)を設定

※1 海岸事業の費用対効果分析事例集

基準年次: 令和7年度

基準とする年度における
価値(現在価値)に換算



・デフレーターによる補正
・社会割引率4%

現在価値化

事業費	202億円
維持管理費	13億円

4. 事業の投資効果

⑤費用便益比

全体事業評価

便益(B)	海岸利用便益	残存価値	総便益	費用便益比 (B/C) <u>1.6</u>
	340億円	11億円	351億円	
費用(C)	建設費	維持管理費	総費用	
	202億円	13億円	215億円	

残事業評価

便益(B)	海岸利用便益	残存価値	総便益	費用便益比 (B/C) <u>1.7</u>
	327億円	10億円	337億円	
費用(C)	建設費	維持管理費	総費用	
	189億円	12億円	201億円	

注1) 便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

4. 事業の投資効果

⑥前回評価との比較 (全体事業)

	前回評価 (令和2年度)	今回評価 (令和7年度)	備考(変化理由)
海岸事業の 費用便益分析指針	平成16年6月	令和6年2月	
基準年次	令和2年度	令和7年度	
施設完成年次	令和31年度	令和31年度	
分析対象期間	施設完成から50年間	施設完成から50年間	
総便益(B)	236億円	351億円	・海岸利用単価の更新 (アンケート実施による単価の再算出) ・基準年次および単価の更新により増加
総費用(C)	186億円	215億円	・事業費の見直し ・基準年次の変更による社会的割引率 の影響
費用便益比 (B/C)	1.3	1.6	・単価の更新に伴う便益の増加と事業費 の見直しに伴う費用の増加の割合の差

4. 事業の投資効果

⑦便益に含まれていない効果

貨幣価値化していないが、効果が期待できるもの

○浸水被害の軽減

○侵食防止による土地保全

○九十九里浜に対する訪問者への関心・癒し効果



5. コスト縮減

養浜材料によるコスト縮減を検討

- ・九十九里浜沿岸の他工事における浚渫土砂を養浜材料に活用することでコスト縮減に努める

施工の効率化によるコスト縮減を検討

- ・事業実施にあたり、ICT施工や新技術の活用を検討しコスト縮減に努める。

6. 対応方針(案)

【理由・説明】

○事業の投資効果が見込める。

全体事業

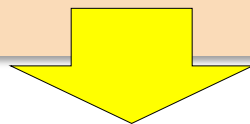
費用便益比 $B/C = 1.6 > 1.0$

残事業

費用便益比 $B/C = 1.7 > 1.0$

○圏央道の整備や世帯数の増加など、今後も海岸利用が見込まれる。

○「素晴らしい風景」や「豊かな漁場環境」が後世へ継承されることが期待される。



事業を継続することとする